

令和 6 年度函館大谷高等学校自己点検評価報告書

函館大谷高等学校

I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

【建学の精神、教育理念について】

Q：I－1 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

A：I－1 親鸞聖人のみ教えに自己を尋ね聞き、自己実現の道を歩む人間の誕生を学園の願いとします。

- 一 かけがえのない「わたし一人」の発見と自覚をうながす教育。
- 一 生まれた意義と生きるよろこびを見いだそうとする意欲と自信を育てる教育。

明治時代、六つの宗旨・宗派からなる函館六和講寺院が互いに宗旨や宗派を超えて、本来の和合僧に立ち返って共同教育事業を起こしたことに始まる〔六和女学校〕。

函館の地で女子教育の必要性は時代と地域社会の要請でもあり「いきいきと生きられる人間の誕生」を願ってやまない情熱が建学の志となった。「函館大谷」の誕生は、「六和」の準備事務局をつとめた函館別院を中心として、真宗大谷派に身を置く人々の深い願いにより《こんな人間を育てたい》という情熱が《大谷》を名告る学園を誕生させた。

Q：I－2 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で生徒や教職員に知らせているかを記述して下さい。

A：I－2 学校案内パンフレット、入学式・卒業式の校長・理事長の式辞、挨拶の中で新入生・保護者・教職員に周知している。生徒には「生徒のしおり」や全校集会・始業式・終業式等の挨拶で周知を図っている。特に全校集会など全員が集まる場では、校長の話の折に必ず全員で合掌している。普段、忙しく日常生活をしている中であっても、互いに手を合わせることで「互いに認め合い、自分を大切に、また同じように他を大切に、自分を振りかえる中で今を一生懸命生きているか」など、自分自身を見つめ直す時間となればと考えている。

教職員には、校長の年度始めの経営方針等で知らせている。また、毎年年度初めに教職員を対象とした理事長講話を行い、建学の精神・教育理念の再確認の場としているほか、令和 5 年に実施した「宗祖親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要並びに創立 135 周年報恩講」の際には、生徒・教職員ともに建学当初の写真や「いのちの願い」を使い歴史や建学の精神を確認した。

Q：I－3 建学の精神、教育理念について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：I－3 建学の精神・学園訓は「大谷高校」として最も大切なものであり、具体的な生活で起こる人間の問題を深く見つめ直していくための指針であると考えている。特に建学の精神に関してはどんなに時代が変わってもすべての人間（自分）が変わらずに問われていくものであり、誰にでも共通して深めていかなければならない内容になっているのでは

ないかと考える。

以上のことから時代に合わせて点検・改善というような理由で、やみくもに見直し・改善していくものではないと考えている。その為、現時点では見直しや改善は考えていない。

【教育目標・学校目標について】

Q：I－4 建学の精神や教育理念から導き出された、教育目標や学校目標を記述して下さい。

A：I－4

学園訓

人生を正しく見て禍福に惑わず真の幸福者になりましょう。

○報恩感謝～“生かされている自分”の存在に気が付き自然や社会の恵みに感謝しよう。

○言行一致～自分の行ないに責任を持ち、人格形成に努力しよう。

○親愛礼譲～かけがえのない“いのち”をお互い尊重しよう。

○和衷協同～互いに信頼しあい心を同じくして共に力を合わせよう。

教育目標

●人間性～常に相手を敬うことのできる豊かな人間を育成する。

●自主性～自己の信念をもって自由と責任を体認させる。

●積極性～人類幸福のための善には積極的な意欲と情熱を培う。

●協調性～お互いの人格を尊重し他をゆるす態度をもって協調性を体得する。

※昭和33年、『学園訓・教育目標』は学制改革と同時に時代の流れに即した言葉に一部変更がなされ現在に続いている。

Q：I－5 教育目標や学校目標を、現在はどういう方法で生徒や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

A：I－5 生徒玄関、体育館の壁への掲示。学校案内パンフレット、生徒のしおり、WEBサイト等に掲載している。また、宗教の授業だけではなく、合同進学説明会や高等学校私学進学フェア、学校説明会での説明等においても各中学校・中学生・保護者等に伝えるようにしている。

Q：I－6 教育目標・学校目標について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：I－6 現状の周知方法以外にも数多く発信・提示することができないかを検討し、さらに浸透していくようにしたい。

【定期的な点検等について】

Q：I－7 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目標や学校目標の点検が定期的

に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。
A：I－7 定期的な点検については、時代背景などの変化に合わせて建学の精神・教育理念の解釈の見直し、教育目標・学校目標確認を行っていきたいと考えている。
Q：I－8 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目標や学校目標の点検及びそれらを生徒や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または職員会議がどのように関与しているかを記述して下さい。
A：I－8 教育目標の変更について職員会議に提案し、全員で内容を確認し、理事会へ報告し承認を得ることになっている。
Q：I－9 定期的な点検等について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。
A：I－9 特に現状としての課題は無いが、理事長講話や宗教行事で学ぶ機会を増やし、教職員や生徒への理解を深めていきたい。
【特記事項について】
Q：1－特 この《I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標について努力していることがあれば記述して下さい。また高等学校で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。
A：I－特 あらゆる学校教育の中で、建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標を意識し日々の教育活動を行なうことを心がけている。本学園では平成10年度より、“人間大好き”をスローガンとしており、入学式・卒業式等の校長式辞の中で披露している。また、大谷専修学院元学院長 竹中智秀先生の言葉である「選ばず、嫌わず、見捨てず」を依り所として、とことん生徒に寄り添う教育を行う事を教職員が心がけ、すべての存在に感謝の心を持てる人を育てていききたいと、日々の教育活動で心がけている。

《添付書類》A：建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標等についての印刷物・宗教教育シート・その他関係書類

Ⅱ 分掌

【教育課程・学習指導（教務）】

Q：Ⅱ－1 シラバスを作成し、それが実行されているか記述して下さい。

A：Ⅱ－1 シラバスについては作成していないが、年度当初に必ず各教科が年間・月間指導計画を作成している。この計画のもと年5回の定期考査を実施し、その時点で進度や理解度について各教科において点検や見直しを行い、修正を加えながら、それに沿った指導をしている。

授業の方針や見通しについては教科部会で論議を深める必要があるが、生徒の実態を顧みずに「ただ計画通りに進めれば良い」となるのは問題であり、今後シラバスを作成する事を前提に検討をしていかなければならないと考えている。

総合的な探求の時間を中心に相当数の時間講師の先生方がいる中、より綿密な連絡を取り合い、周知・点検・総括をしながらすすめていく必要があり、評価の基準についても、新任の教員が多い現状の中、教務部から見える形で周知・確認をする必要がある。

Q：Ⅱ－2 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示してください。

A：Ⅱ－2 履修のみで取得できる免許・資格はない。

Q：Ⅱ－3 教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

A：Ⅱ－3 当該教科の提起をうけて受験希望者を募り、選択授業の開設や希望者を対象に放課後講習を実施している。

日本語ワープロ検定、情報処理技能検定、実用英語技能検定、日本語検定
危険物取扱資格、漢字検定、硬筆書写

Q：Ⅱ－4 定期考査の結果をもとに、適切な教科指導がどのように行われているか記述して下さい。

A：Ⅱ－4 これまで早期に基礎的な学力を回復させる必要性を感じ、学期末に希望者を対象に講習を行っている教科もあった。また、各教科担当者は考査の結果にもとづいて、特に弱点と思われる分野に焦点をあて、主に低学力者に対する反復学習に力を入れてきたが、全校的・組織的な取り組みとはなっていなかった。そのため現在では Benesse の基礎力診断テストを年2回実施し、学年での分析会を実施することで生徒の学力把握・向上の参考にしている。

また、「すべての生徒の学力を向上させる」という学校長の経営方針のもと、出来るだけ単元を細分化して小テストを行ったり、定着度合いに応じて授業進度を調整したりする教科も見受けられる。さらに、学期末の定期考査後の結果により「1」が見込まれる生徒を対象とする補習・追試を実施し、早い段階で学び直しを行い、補習・追試期間に合格した場合は評価「2」となる取り組みをしている。この取り組みにより、短い期間での学び直しをすることができるようになった。現在では学期末考査後の期間が「学力回復期間」とであると明確に位置づけされている。

また、成績不良となった生徒については改善を目的として長期休業中に保護者に来校してもらい現状を伝えるなどをしている。その際には家庭での生活状況なども情報共有することで指導の協力体制を作るようにしている。

今後は「期間の設定」と「内容の充実」をさらにはかっていきたい。

Q：Ⅱ－5 生徒の学習状況や評価方法などが、わかりやすく生徒や保護者に説明されているか記述して下さい。

A：Ⅱ－5 学習状況においては、考査毎に学級担任より成績の送付を行っている。その際、学年通信や学級通信等により、学年やクラスの状態を理解してもらえるようにしている。また、前述したように学期末考査の成績をもとに本人及び保護者に来校してもらい管理職・担任および教科担当者による面談を行っている。主に進級や卒業への意欲を喚起し、具体的な今後の学習方法を説明する場としているほか、Classi などの ICT ツールを利用した学習状況の共有を検討している。

また、保護者には入学式後には教務部から、新入生にはオリエンテーションにおいて説明が行われ、学習に向かう姿勢・評価方法（とりわけ、授業態度や地道であっても努力を継続させる必要性など）等を説明している。

しかし、他の分掌や事務部門からの説明もあり時間的にも限られるため、特に保護者にはその1度だけで周知するのは難しい面もある。そのため学年ごとに保護者面談会を年に2～4度ほど開き、生徒の現状などを多方面から分析し、情報を共有する中で理解してもらえるようにしている。

また、生徒には各教科担当者から年度当初や学期始めの授業時に教科毎に説明、同時に各LHRにおいて担任による指導がなされ周知の徹底を図っている。

Q：Ⅱ－6 総合的な探求の時間が有効に利用されているかを記述して下さい。

A：Ⅱ－6 「選択した講座を履修することで何ができるようになるか」をもとに講座を展開している。主に芸術の授業だけでなくそれ以上に個性を伸ばしたいと考えている生徒向けの講座や進路を視野にいたった講座、また、資格取得のための講座、さらに高校生活後にも続けられ生活を豊かにする糧とするべく設定された講座など多岐にわたっている。

生徒は自分の興味・関心や将来に必要と考える内容にもとづいて自主選択をする。その上でクラス（講座）の編成を行い、指導を行っている。

現在開講している講座は次の通りである。

2年・・・ピアノ、絵画、陶芸、書道、実用英語、和楽器、写真研究、合気道
公務員養成講座

3年・・・ピアノ、絵画、陶芸、書道、和楽器、写真研究、実用英語、韓国語
公務員養成講座

Q：Ⅱ－7 生徒による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

A：Ⅱ－7 教科で実施しているものはあるが、学校としては生徒による授業評価は行っ

ていない。

しかし、生徒が今行われている授業をどのように受け止めているのか、授業の内容をきちんと理解しているのか等に謙虚に耳を傾け授業改善に取り組むべきであるのは当然のことといえる。

「教師が設定した授業目標について、生徒がどれだけ理解出来たか」ということに特化して生徒自身に評価をさせることで、教材や授業に改善の余地がないかを分析していけるように検討したい。

Q：Ⅱ－8 高等学校全体の授業改善への組織的な取り組み状況について記述して下さい。

A：Ⅱ－8 校長方針にもあるように「すべての生徒の学力を上げる」べく教科担任とクラス担任や学年団と連絡を密に取りながら弱点が克服されるよう指導方法や教材の作成を検討してきた。

1、入学前学習

入学後に Benesse の基礎力診断テストを実施するため、入学前の課題として「One-Week トライアル」という小冊子（国・数・英）を手続きの際に配布し、春休みに取り組む課題としている。また、入学後には授業で取り上げながら進めている。

2、教科による放課後の追再試実施

授業中に実施した小テストなどを受験することができなかった生徒や、合格点に到達しなかった生徒に対しての追再試を実施するなどしている。

Q：Ⅱ－9 過去3ヵ年の退学、休学、留年、転学等の数を、次の表を例にして記載して下さい。

A : II - 9

区分	2021年度	2022年度	2023年度	備考
1年生 在籍数 (5/1)	106名	134名	119名	
内、退学者数	4名	9名	6名	
内、休学者数	0名	0名	0名	
内、退学者数	0名	0名	0名	
内、転学者数	1名	3名	2名	
内、留年者数	0名	0名	0名	
年度末在籍数	102名	122名	111名	※2021年度 転入生あり
2年生 在籍数 (5/1)	100名	102名	122名	
内、退学者数	2名	1名	4名	
内、休学者数	0名	0名	0名	
内、退学者数	0名	0名	0名	
内、転学者数	2名	2名	0名	
内、留年者数	0名	0名	0名	
年度末在籍数	96名	100名	118名	
3年生 在籍数 (5/1)	140名	95名	99名	
内、退学者数	0名	2名	2名	
内、休学者数	0名	0名	0名	
内、退学者数	0名	0名	0名	
内、転学者数	1名	1名	0名	
内、留年者数	0名	0名	0名	
年度末在籍数	139名	92名	97名	

Q : II - 10 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者、転学者及び留年者に対する指導（ケア）の現状について記述して下さい。

A : II - 10 退学の理由割合は「進路変更」がほとんどである。

退学理由としては、中学校時代の不登校傾向がなかなか改善されない場合や校内での人間関係の悩みや不安から登校できなくなるケースがある。学習障害の傾向が見られる生徒や、集団生活不適応の生徒が増えてきているようにも感じられる。

また、入学式には出席するものの、その後については登校しない・できないと4月中に退学・転学を希望する生徒もあり指導自体が難しいケースがある。

これについては、具体的な根拠は無いが、小学校→中学校→高校と変化の大きい時期に新型コロナウイルスによる緊急事態宣言や度重なる臨時休校などがあった影響が少なからずあるのではないかと考えている。

今後についてはこれまで以上に保護者と密に連絡を取り、共通の願いがあることを確認しながら、生徒・保護者・教員間の信頼関係を築いていくことが大切だと考える。そのために「入学前面談」「定期的な面談の実施」を行い、さらに成績不良者や遅刻・欠席の多い生徒に足し

ては各学期末に保護者と連絡をとり、共通の理解のもと生徒への指導を行うようにしていきたい。
Q：Ⅱ－11 教育課程・学習指導（教務）について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。
A：Ⅱ－11 校長より年度当初に発表される「経営方針」に「すべての生徒の学力をあげる」というテーマのもと、各教科でできるところから取り組んでいる状況である。先生方は「教員としての誇り」をもって取り組んでくれていると思う。今後については、<u>カリキュラムの改善を検討していくほか、学校指定機器を授業などでどのように活用していくかをさらに検討していきたい。</u>
【生徒指導・部活動（生徒指導・生徒会）】
Q：Ⅱ－12 生徒指導の年間指導計画が作成されているか、作成されている場合は概要を記述して下さい。
A：Ⅱ－12 本校の生徒指導部では「信頼関係を軸に生徒の認識を変えること」をベースにしている。また安全で安心して通える場に、そして豊かな社会性を身に付けさせ、自律した生徒の育成を目指している。
Q：Ⅱ－13 家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の定着を目指した生活指導がどのように行われているかを記述して下さい。
A：Ⅱ－13 毎年、入学式前に入学者の家庭対象に保護者面談の実施。2・3年生は春と秋に保護者面談を実施し、家庭との連携を図りながら、基本的な生活習慣定着を目指した指導を行っている。
Q：Ⅱ－14 服装や身だしなみ、マナーなどの指導がどのように行われているのか記述して下さい。
A：Ⅱ－14 本校は全校集会等で一斉の点検指導ではなく、朝の HR にて朝の身だしなみ点検という形で行っている。改善がないものに関しては帰宅指導をおこなっている。
Q：Ⅱ－15 問題行動の未然防止に関する取り組みがどのように行われているのかを記述して下さい。
A：Ⅱ－15 教職員間の緊密な情報交換、情報共有、また薬物防止、交通安全、スマホ使用（SNS）安全教室等を実施。 QU アンケートを実施して、生徒の学校生活のメンタル面の現状把握。他校生徒指導部との緊密な情報交換・情報共有。
Q：Ⅱ－16 クラブ活動の現状、生徒会の現状、学校行事（学校祭等）の実施の状況を、その指導体制及び生徒の活動状況を含めて記述して下さい。
A：Ⅱ－16 クラブ活動は、体育コースの野球部・サッカー部・バスケットボール部・柔道部・陸上部をはじめ、普通コースにも自転車競技部・卓球部・バドミントン部等の様々な部活動があります。昨年度からはサッカー部の中で女子チームを結成し、活動を続けて

います。複数の部活動が全道大会に出場し、中には全国大会まで駒を進める部活動もあります。各部活動で刺激を合いながら活動を進めています。

生徒会執行部は立候補ではなく、希望した生徒により活動しています。「より魅力のある学校作り」をモットーに様々な学校行事や生徒会行事に力を注いでいます。数年間コロナ禍により、実施できない学校行事が多くありましたが、生徒自身が考え出来ることと出来ないことに気を付けながら話し合いを進めてきました。さらに意欲のある生徒が増え、生徒会活動により学校を盛り上げていきたいと考えております。

Q：Ⅱ－17 生徒指導・部活動（生徒指導・生徒会）について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：Ⅱ－17

生徒指導

・現状の課題

現在は喫煙についてはほぼ無い状況である。暴力行為、いじめ等についてもあまりない状況であり、SNS 絡みも年に数度あるかどうか。中学校時に特別支援教室に在籍していた生徒が少数入学しており、その生徒たちの心のケア、問題行動へのアプローチに苦慮している。

・今後の改善計画

問題行動が起きる前の情報収集・共有を密に行い、また不登校生徒に対しては家庭との連絡を密に行いしっかりメンタルケアをしていける体制を整えることが急がれる。

生徒会

現在、生徒数や学校の規模を考えると活動場所が限られています。学校の協力のもと、校内・敷地内のみではなく、外部の施設も多く利用しています。学校との協力、外部との連携が必要不可欠になっています。今後の部活動の活躍を願いながら陰ながら支えて行ければと思います。

生徒会執行部は、希望制のため、その年度により執行部の人数や意欲が変わってきます。どんな生徒でも参加しやすく活動しやすい環境作りが必要であると考えています。

【進路指導】

Q：Ⅱ－18 年間指導計画に基づく進路指導が、どのように行われているかを記述して下さい。

A：Ⅱ－18 こまめな進路指導部会議、学年会議を実施し生徒一人ひとりを全員で進路指導している形をとっている。

担任教諭が先頭に立つが、副担任や進路指導部で支えている。

また、生徒にとって最善の進路指導となるように時間があれば担任・副担任・進路指導教諭などと少しでも対話する時間を設けている。

Q：Ⅱ－19 卒業後の進路への関心を高める計画的な取り組みが、どのように行われてい

るのかを記述して下さい。	
A：Ⅱ－19 ただ進路行事に参加するだけでなく、事前指導、事後指導に取り組み生徒への落とし込みを実施している。 進路イベントのほとんどは生徒の自主性に任せている部分があるが、各学年必ず進路指導部が主体となって行う行事を設定しており、<u>卒業生の進路体験談等の講演会を開催するなどしている。</u>	
Q：Ⅱ－20 卒業後の進路に関する情報提供や保護者との懇談が、どのように行われているのかを記述して下さい。	
A：Ⅱ－20 保護者に対しては1年次、2年次にそれぞれ年一度だけであるが、「進学準備」という名目で保護者を対象とした進路説明会を開催している。内容は主に「お金」や「進路に関わるこどもとの接し方」について説明している。ただし、継続的に進路に関する情報提供が満足にできているとは言えない。その他の保護者に対する働きかけは資料等を配布するにとどまっている。<u>今後についてはキャリア教育と探究活動を結び付けた取り組みを検討していきたいと考えている。</u> また、保護者懇談は各学年、年に2回行っている。最終的な進路に関する保護者懇談は3年時の6月前後に行われる。	
Q：Ⅱ－21 進路指導について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。	
A：Ⅱ－21 保護者への進路情報提供をどのようにするか。 ・現状、生徒本位で進路を決定できずに保護者の決定権が強いご家庭が増えてきている。この解決策として保護者へのガイダンスや保護者面談を開催はしているが、どこまで改善できているかは不明。とくに本校の場合、生徒が優しいのか保護者を気遣ってお金のかからない方策をとろうとするケースが増えてきた。しかし保護者としては、相談してくれないからわからない・・・という状況。いかにご家庭で「進路」の話を具体的にさせていただくかが大きな課題。 ・生徒への日々の進路意識の向上。 日ごろの勉強と進路が結びついていないので、毎日の勉強がおろそかになっているので、本校卒業生の体験談などを聞く機会を設けたいと考えている。そこで、高校生の間ですべきことを教示してもらうことを模索している。 ・就職希望者と進学希望者が混在しているクラスで、どのように両者ともに円満な進路指導、進路活動ができるか。	
【保健管理・安全管理・個人情報管理】	
Q：Ⅱ－22 事故や問題が生じた場合の保護者への説明や対応が、どのように行われているのか記述して下さい。	
A：Ⅱ－22 事故や問題が生じた場合は、速やかに校長（不在の場合は教頭）に報告する。また、該当の生徒の保護者には事情に応じて担任、または教頭から連絡・説明し、同じ立場で問題に対応することを確認して協力して問題に対応する。	

Q：Ⅱ－23 生徒や保護者の個人情報の取り扱いについて記述して下さい。
A：Ⅱ－23 学園の定める「函館大谷学園 個人情報保護規程」に則り取り扱っている。 また、個人情報を含む文書の取り扱いについて、電子メールにおいての対策としてツールを利用するなど、対策を行っている。
Q：Ⅱ－24 教室や校舎内外の美化・清掃活動がどのように行われているのか記述して下さい。
A：Ⅱ－24 清掃については、教室内は生徒、校舎内外は校務補が担当している他、美化委員会が中心となって花壇の整備や、清掃活動も年に数回行っている。
Q：Ⅱ－25 健康・安全に留意した生活が送れるような指導がどのように行われているか記述して下さい。
A：Ⅱ－25 学校保健安全法第5条に基づき、「学校保健計画」（別添参照）、第27条に基づき「学校安全計画」（別添参照）を作成し計画を実践するよう進めている。また、学校長の学校経営方針を踏まえ、生徒指導計画（別添参照）、保健室経営計画（別添参照）を作成し生徒管理や保健管理・安全管理・指導計画を実践するよう担任・学年・各種関係機関と連携し取り組んでいる。 定期的に生徒指導部通信・保健だよりを発行し、生徒への啓発指導資料として各HRで活用している。薬物乱用防止や交通安全、思春期保健については専門機関より講師の方を招き、専門家の視点から具体的な指導を講演形式で生徒に行っている。市内生徒指導部関係団体との情報共有により、生徒指導事案を防ぐための予防的指導を心がけている。 日常的に教職員間で生徒の情報共有を行い、生徒理解に対し共通認識を持って指導できるように努めている。必要に応じて担任や部活動顧問、養護教諭が個別に面談を行い生徒の状況を把握し情報を共有し指導の際の一助としている。 【健康について】 ① 毎年度当初に保健調査を実施。生徒の緊急時保護者連絡先・現病・既往・アレルギー等の把握を行い、保健調査結果一覧をファイルに管理し職員室と体育教官室に設置。また、担任・学年に情報共有を行っている。また、要健康確認生徒は個人健康面談を実施。必要な場合は、担任・学年主任・養護教諭・保護者で面談を行い学校生活上での配慮や支援について確認連携を図っている。 特に健康面で合理的配慮等が必要な生徒情報については、教職員全員に情報共有している。職員室内には保健調査結果一覧ファイルと別に緊急時に医療機関へ搬送が必要な要管理生徒については、職員室と保健室内に個人ファイルを管理し持ち出せるよう個別に準備している。例えば、重篤なアレルギー、心疾患、2型糖尿病（低血糖時）。 ② 健康診断では健康診断の意義や受診方法、学校行事では懸念される健康リスクについて啓発資料として保健だよりを活用しHR指導を行っている。また、感染症予防については、学校全体の取り組みとして、学年と連携し校内の巡回、保健だよりや生徒指導部通信により具体的な個々の感染症対策行動について指導を実施。 ③ 教職員研修の実施検討。<u>コロナ禍前には</u>学校保健の最近のトピックスに関する研修会

を企画し、専門家から講義や演習を受け教職員が知識や技能を研鑽する機会を設け生徒理解や生徒指導に還元できるよう取り組んでいた(発達障害、自殺予防ゲートキーパー講習、救命救急講習など)。

【安全について】

- ① 学校環境衛生については学校薬剤師による定期検査の実施により、水質、照度、教室内二酸化炭素濃度、保健室寝具のダニアレルゲン検査を行い基準値内にあるか確認し、検査結果と助言や意見等をいただき、換気指導など安全管理上の改善等に活かしている。
- ② 校舎内、敷地内において害虫の発生、破損箇所、危険箇所、学校所有のバス・公用車の使用後の不具合がないか日常的な点検を行い、教職員をはじめ、用務員、清掃員から報告を受け速やかに修繕し事故防止に努めて、修繕中は立ち入り禁止など生徒にも周知している。
- ③ 昨年度に引き続き市内における自転車による交通事故が多発していることから、自転車点検をはじめ、自転車の乗り方指導、交通ルール、実際に本校で自転車事故が起こった際に状況を聞き取り、再発防止のため事故を検証し指導部通信で生徒に啓発を行っている。また積雪時の自転車乗車禁止について指導を行っている。
- ④ 市民の方からの通報連絡や市内生徒指導関係団体からの情報提供への対応と指導、場合によっては現場確認・巡回し生徒指導を行っている。
- ⑤ 救急体制を整理し、職員室内に掲示し緊急時の対応に備えている。

Q：Ⅱ－26 災害対策、防犯対策に関する取り組みがどのように行われているか記述して下さい。

A：Ⅱ－26 令和5年度は11月中に避難訓練を実施予定。

防犯対策に関しては敷地内に複数の防犯カメラを設置中。ただし、不審者の侵入などの防犯対策に関してはこれからの課題。

Q：Ⅱ－27 保健管理・安全管理・個人情報管理について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：Ⅱ－27 特にありません。

【入試・生徒募集】

Q：Ⅱ－28 入学選抜の方針、選抜方法をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。

A：Ⅱ－28 管内向けには私学合同進学説明会、学校説明会、私学進学フェアや、中学校に出向いての進路説明会でパンフレット・要項を配布し説明している。管外に対しては、受験情報誌・新聞・webサイトに掲載し周知している。

また毎年、管内の各中学校に挨拶に伺い、3年生生徒分のパンフレット・要項等を配布してもらっている。

Q：Ⅱ－29 広報及び生徒募集についての体制の概要を記述して下さい。
A：Ⅱ－29 教務部の業務内容の一つとして生徒募集があり、教務部長と生徒募集担当1名の2名で内外の業務をこなしている。外部対応に関しては教頭、また部活の特奨生関係では各部活顧問に、学校説明会等準備が膨大なものに関しては教職員全体に協力をしてもらう等、場面に応じて各先生方にも活動をしてもらっている。
Q：Ⅱ－30 入試・生徒募集について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。
A：Ⅱ－30 平成25年から続けている学校見学は、さまざまな事情を抱える生徒たちに対して個別のケアや安心して登校するためのきっかけとして機能している。問題なく登校できる中学生は平日に見学に来ることが難しい。本校が土曜授業を行ったり、中学校側に学校見学時の出欠席の取り扱い等の協力が必要である。 学校の評価・評判は、日々教員がどれだけ生徒に真摯に向き合っているかで変わってくるため、生徒募集の役割はその活動を周知することにある。 広報の場は、学校説明会の申し込みのオンライン化やweb出願など、デジタル化しているのでwebで広報できる媒体を検討している。 入試に関しては入選の際にきめ細やかな検討や、面談などをすることで生徒が安心して登校できるように心がけている。その結果、在校生や保護者から中学生やその保護者へとその情報が伝えられ、専願での出願が増えてきているのではないかと予想している。
【特別支援教育】
Q：Ⅱ－31 特別支援教育への取り組み・考え方を記述して下さい。
A：Ⅱ－31 特別支援を要する生徒については、入学前にも入学後にも発達障害等の「判定」を受けていることが分かっているケースは稀である。数年前までは中学校からの入試相談の際に情報の共有ということで事前に知らされるケースも一定数あったが、現在では「疑いがある」「行動からみると」といった程度のものが多く、件数もまばらな状況である。 入試の可否については、発達障害の判定を受けているという事と本校がその生徒を指導していくことが可能かどうかは別の問題であると考えている。事前相談の情報、入試・面接での様子をできるだけ総合して判断している。そのような段階であるから、本校の特別支援の体制や取り組みが充分とはいえる状況ではないが、<u>今後は様々な事案に対応できるような指導体制を検討していきたい。</u> 特別支援とは直接関係ないが、現在では全学年でQUテストを実施し、学級・学校生活への意欲や満足度、友人や教師との関係、学習や進路への意欲などについて参考としている。今後も様々な角度から生徒を観察し、集団的に取り組んでいきたい。
Q：Ⅱ－32 特別支援教育について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。
A：Ⅱ－32 学年・担任・教科担・養護教諭など関係する部署が情報を共有し、常に連携を取りながら取り組んできている。 今後も上記の取り組みをさらに進めていきたい。

【地域活動】	
Q : II - 33	校内の様子（学校や部活動、行事など）を家庭にどのように伝えているか記述して下さい。
A : II - 33	公式ホームページで様々な行事について発信をしている。
Q : II - 34	地域などに対して、学校の様子をどのように伝えているか記述して下さい。
A : II - 34	II - 33 で記述した内容のほか、年に一度発行される「学園報」で高等学校を含めた学園全体の様子を伝えている。
Q : II - 35	PTA の活動について保護者にどのように情報を伝えているか記述して下さい。
A : II - 35	PTA 活動について保護者に伝えるに当たっては、『さくら連絡網』というアプリを使用しております。 PTA 総会の資料を添付して送信したりしています。
Q : II - 36	過去 3 ヶ年（2021 年度～2023 年度）の生徒による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。
A : II - 36	過去に重大災害地への義援金やユニセフ等への募金活動を行ったことはありますが、過去 3 年間で生徒会が主体となって行ったボランティア活動等はありません。
Q : II - 37	高等学校では生徒の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。
A : II - 37	地域活動やボランティア活動は、生徒の成長にとって重要だと考えています。これらの活動を通じて、協力やコミュニケーション力、責任感が養われ、地域とのつながりも深まります。また、活動に参加するだけでなく、その経験をどう生かしていくかが大切です。 ここ数年、そうした活動の機会は減っていますが、生徒一人ひとりが学びや成長を振り返り、今後、ボランティア活動などを通じてより豊かな生活や将来に結びつけられるように努めていきたいと考えています。
Q : II - 38	地域活動について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。
A : II - 38	災害に関しての募金活動は校内での自主的・積極的なボランティア活動や、 <u>宗教科を中心とした募金活動</u> が展開された。 今後の課題としては、学校としての取り組みではないが冬期間に学校前の歩道や付近の交差点周りの雪かきなどを行っている部活動も一部あり、このような活動を生徒会が中心となって「いま何ができるか」を計画していけたらと考えている。
【図書館等】	
Q : II - 39	図書館等の概要について、全体の配置図、蔵書数、学術雑誌数、AV 資料数、座席数、年間図書予算、購入図書選定システム、図書等廃棄システム、司書

又は司書教諭の人数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。

A：Ⅱ－39

基本目標

学校図書館メディアの収集・提供を通じて学校の教育活動に寄与するとともに、生徒が学級内の固定された人間関係から離れ、安心して過ごせる場を提供する。

運営の基本

- (1) 主体的・意欲的な学習活動や読書活動を支援する。
- (2) 生徒や教職員の多様な情報ニーズに対応する。
- (3) 生徒が落ち着いて過ごせる、安らぎのある環境を整える。
- (4) 図書局員を図書室運営に主体的に参画させる。

蔵書数 4,976 冊、AV 資料数 10 冊、座席数 22、年間図書予算 20 万円

図書選書基準

- ・生徒の学習活動に役立つもの
- ① 正しい知識や研究成果が述べられているもの。
- ② 新しい知見や方法が紹介されているもの。
- ③ 生徒の批判力や情操を育てるもの。
- ・読書の楽しさを味わえるもの。
- ・教職員の教育活動に資するもの。
- ・生徒の発達段階に即しているもの。
- ・奥付に必要な事項が記載されているもの。

図書廃棄基準

次に該当する図書は廃棄の対象とする。

- ・記述されている内容・資料・表現等が古くなり利用価値の失われた図書
- ・利用頻度の著しく低い図書
- ・ただし、年鑑・白書・郷土資料・貴重書は原則として廃棄の対象としない。

司書教諭 0 名

Q：Ⅱ－40 図書館等について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：Ⅱ－40

課題

- (1) 読書に対する興味・関心を抱かせるような活動を行う。
- (2) 生徒の読書実態や図書室の利用状況を把握する。
- (3) 生徒および教職員のニーズを把握し、図書を計画的に収集・整理し、提供する。
- (4) すべての生徒と教職員が利用しやすい環境を整える。
- (5) 図書局員の主体性・責任感を向上させる。

改善計画

- (1) 生徒が関心を持つような掲示・展示コーナーを設置する。
- (2) アンケート等で生徒の読書実態を把握する。
- (3) 誰でも気軽に図書のリクエストができるようにする。
- (4) 教職員に対し図書購入の希望調査を行い、選書に反映する。
- (5) 図書室の利用マナーを生徒に周知・徹底する。
- (6) 書架の見出しなどを大きく作り直し、生徒が利用しやすいように工夫する。
- (7) 定期的な広報活動により、図書室の取り組みを全校に周知する。
- (8) 図書局員が、図書室運営の基本方針を理解した上で活動を行えるよう指導する。

【特記事項について】

Q：Ⅱ－特 この《Ⅱ分掌》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、分掌について努力していることがあれば記述して下さい。

A：Ⅱ－特 特にありません。

《添付書類》B：生徒に配布している教務に関する印刷物・シラバス・授業改善に関する資料・その他関係書類

《添付書類》C：生徒指導に関する印刷物・クラブ活動一覧表・その他関係書類

《添付書類》D：進路の実績（過去3ヵ年度）についての印刷物・その他関係書類

《添付書類》E：保健管理・安全管理・個人情報管理に関する書類

《添付書類》F：入試要項・学校パンフレット

《添付書類》H：図書館等の規程

Ⅲ 管理運営（ガバナンスの確立）

Q：Ⅲ－１	理事会は学校法人の意思決定機関として適切に運営されているか現状を記述して下さい。
A：Ⅲ－１	良好に運営されている。理事長の下、全員一致で学園運営が進められている。
Q：Ⅲ－２	評議員会は理事会の諮問機関として適切に運営されているか現状を記述して下さい。
A：Ⅲ－２	諮問機関として <u>適切に力を発揮している。なお、私学法改定にともない、学園法人本部において寄附行為の改訂をすすめている。</u>
Q：Ⅲ－３	監事は寄付行為の規定に基づいて適切に業務を行っているか現状を記述して下さい。
A：Ⅲ－３	理事会前には、本部より資料を基に年度の運営状況の説明を受け厳しく監査をし、結果を評議員会にて説明・報告をしている。
Q：Ⅲ－４	高等学校の教育・運営上のトップである校長は、高等学校の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また高等学校に係る教育・運営上の事項はどのような流れで決定し、その流れの中で校長はどのように関与しているかを、できれば校長自身が率直に現状を記述して下さい。
A：Ⅲ－４	教職員の全員の力を借りながら学校運営を行っていると感じている。特に、教職員が働きやすい環境を提供するように努めている。また、生徒募集において教職員の先頭を切って地域の中学校に足を運び、現在の学校の状況を周知し理解してもらうべく行動をとっている。教育・運営上の流れについては、職員会議を中心に全員で確認しながら物事を決めていく流れで働いている。職員会議での最終決定は校長が決定する。
Q：Ⅲ－５	管理運営について、現状の課題と今後の改善計画を記述して下さい。
A：Ⅲ－５	特にありません。
【特記事項について】	
Q：Ⅲ－特	この《Ⅲ管理運営》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。
A：Ⅲ－特	教育環境の改善として特に進められてきたことはないが、中学生・保護者・中学校教員を対象として「学校見学はいつでもできます」ということは平成 26 年度から中学校に案内をしている。ここ数年は年間数組程度の見学だったが、コロナ禍以前は年平均 10 組程度が見学に来てくれていた。

Ⅳ 財務

Q : IV - 1	学校法人もしくは高等学校において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。
A : IV - 1	今後 5 ヶ年の生徒入学生予想数等を基に中期的な経営計画を策定している。
Q : IV - 2	当該年度の消費収支の収入超過又は支出超過の状況について、又は事業活動収支における当年度収支差額の収入超過又は支出超過の状況について、その理由を記述してください。
A : IV - 2	<u>当該年度の教育活動収支差額は 37,560 千円のプラスであった。定期的な見直し合わせにより灯油の納入業者を決定し、光熱水費支出を抑制する等、経費の削減を徹底したことにより、収入が支出を大きく上回っているが、物価の高騰による経費への影響は避けられず、一層の適正化を要する。具体的な方策として、令和 6 年度に暑熱対策としての全普通教室への空調設置を実現する際、機器をガスヒートポンプによるものとし、同時に太陽光発電設備を設置することにより経費削減と環境への配慮を同時に行うことを目指す等の取り組みを進めている。</u>
Q : IV - 3	財務情報の公開をどのように実施しているのか記述して下さい。
A : IV - 3	ホームページに掲載している。
Q : IV - 4	教職員に対して自法人の財務状況を毎期ごと十分に説明する機会を設けているか記述して下さい。
A : IV - 4	<u>例年、5 月の理事会終了後、教職員への財政説明会を実施しているほか、職員会議等で財務状況を説明し、教職員の理解と協力を求めている。</u>
Q : IV - 5	財務について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。
A : IV - 5	<u>急激に進行する少子化による生徒数の減少は避けられず、函館市および渡島管内においては今後 15 年で中学校卒業者が半減（R6 年度 2,926 人）することが確実視されており、物価の高騰も続くと考えられる。また、令和 5 年度の管理運営費補助金は前年比 3,633 千円のマイナスとなっている。これは特色教育加算の単価が下がっていること等に起因しており、今後も同傾向であることが予測されることから、収支両面での対策が求められる。令和 3 年度、およそ 20 年ぶりに授業料を改定し、現時点では短期的な財務状況は改善されているが、特色教育加算等により補助金収入の増を図るほか、経費の一層の適正化、施設設備の適切な整備計画などにより、中長期的な改善を図りたい。</u>
【特記事項について】	
Q : IV - 特	この《IV 財務》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。
A : IV - 特	単年度における赤字決算を出さないことを前提に予算の策定、執行をおこな

うとともに、長期的に持続可能な学校運営をめざし、財務を管理、計画している。

《添付書類》J：財務に関する書類

V 改革・改善

Q：V－1 自己点検・評価を高等学校の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているのかについても記述して下さい。

A：V－1 普段の教育活動について、省みる機会として非常に大切なことと考えている。教頭が評価を各担当へ依頼し、とりまとめを行っている。今後とも道内大谷高等学校の相互評価を参考に進めていきたいと考えている。

Q：V－2 過去3ヶ年（2021年度～2023年度）の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配布先の概要を記述して下さい。

A：V－2 毎年発行し、公式ホームページで公表しているほか、管理運営に関するヒアリング時に道学事課に提出している。

Q：V－3 2023年度までに行った自己点検・評価の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているのかについても記述して下さい。

A：V－3 新年度方針へ向けて各担当部署等全体で活用している。今後も同様の活用を考えている。

Q：V－4 改革・改善について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：V－4 他校の現状を参考に本校において必要なものは取り入れ、また改善をしながら学校運営に反映し、生徒一人一人が安心して通える環境を整えていきたい。

また、学習環境としては既存施設の枠にとらわれず柔軟に外部施設を使用することで、充実した学びになるようにすすめている。

【特記事項について】

Q：V－特 この《V改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

A：V－特 これまで以上に真宗大谷派の学校であること（建学の精神）をアピールしていきたいと思っている。具体的な方法としては毎年行われている学校説明会の際に体験授業の一つとして「宗教」の授業を実施する他に、中学校で行われる進路説明会などでも積極的に伝えているとともに、函館大谷の強みを生かした併設されている短大との高大連携の強化を進めていきたいと考えている。

《添付書類》K：過去3ヶ年の自己点検・評価報告書・その他関係書類

VI 危機管理（2021 年度から追加）

Q：追－1 現在の新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、教育現場に大きな影響をもたらしています。このたびの感染症が貴校にもたらした影響と、貴校において感染症対策として既に行った、又は今後予定している対応があれば記述ください。

A：追－1 コロナ禍と言われる状況下において、「少しでも風邪症状がある場合は積極的に休むこと」という約束事は大切なものではあるが、学校生活への定着というところに影響が出てきているのではないかと感じている。今年度入学してきた1年生は小学校段階から影響を受けており、学校生活の大部分の行事などを経験できないできた。そのため、学校生活の変化に馴染んでいかなければならない大切な期間が曖昧な生活になってしまい、学校でのルールや人間関係の構築などの身につけてくるべき事が見につかずに今に至ってきちゃっているように感じる。その結果、高校へ進学後も同じ感覚で遅刻・欠席が積み重なってしまっているのではないかと考えている。現状の対策としては、こまめに保護者と連絡を取りながら情報を共有するなどしているが、それだけではうまくいかない部分などもあるように感じている。なので、さらに対応を検討していきたいと考えている。

Q：追－2 感染症対策に限らず、頻発する自然災害をはじめとして、学校運営にも危機管理の意識がいよいよ求められています。貴校において突発的な事象に即応できる危機管理体制が構築されていれば具体的に記述ください。また、危機管理体制の整備に係る課題と展望についても記述ください。

A：追－2 危機管理体制が十分に構築されているとは言い難いが、まず第一に「生徒の安全確保」を念頭に考えている。例えば悪天候による公共交通機関の運休など、帰宅が困難な状況が想定される場合は出来るだけ素早い判断をするようにしている。結果として何事もなかったとしても、生徒の安全が間違いなく確保されていたと考えればいい。
今後に関しては様々な状況に対応できる危機管理マニュアルの整備を進めていきたいと考えている。